

西宮市議会議員

たかの しん

政党無所属・36才

- ◆苦楽園小・苦楽園中・関学高・関学大（法）卒業
- ◆元・阪急不動産（株）/ 阪急阪神不動産（株）勤務

公式HP・SNSは
こちらから！

3月議会では、新年度予算案と市長の施政方針演説に対して、各会派が見解を問う「代表質問」が行われます。私は昨年より会派・ぜんしん（政党無所属の保守系議員で構成する市議会第2会派）の幹事長を務めており、今回も会派を代表して質問に臨みました。今回の市政報告では、市政の大きな方向性や、私達が特に重視するテーマについて行った19項目の質問から、内容を抜粋してお伝えいたします。

必要な施策に財源を投じるため、堅実な財政運営を！

■収支改善の取り組みが進められていますが、楽観できる状況ではありません。

2018年度以降、本市財政の赤字基調が続く中、2024年度からは年間40億円の収支改善を目指した「財政構造改善実施計画」が進められています。現時点での進捗状況は概ね計画通りですが、市有地の売却等、一時的な収入に頼っている面も大きいのが実情です。直近の2024年度決算は依然として赤字（※）である上、今年1月からは新たに年間約6億円の支出を伴う「こども医療費の完全無償化」も開始されました。これらの状況をふまえ、市はさらなる収支改善に取り組むべきです。

2026年度の予算案では、昨年9月時点の収支見通しに比べて市税収入が約20億円、国からの交付金等が約10億円増加しており、収支状況は好転する見込みです。しかし、こうした収入増は社会全体の賃上げ傾向や国の政策を主な要因とするもので、今後の動向は不透明です。支出面では高齢化の進行等による扶助費の増大に加え、物価や金利の上昇に伴う影響が生じることも確実で、楽観するべきではありません。

※基金の積み立て・取り崩し等を除いた当該年度の収入・支出の状況を示す「実質単年度収支」が、約15億円の赤字

■子育て支援と公共施設の修繕・更新に財源を投じるべきです！

厳しい財政状況の中でも、市民の生活や安全を守るため、必要な施策には財源を投じるべきです。特に重点的な投資が求められる分野に、子育て支援と公共施設の修繕・更新があります。子育て支援においては、家庭への経済的支援はもちろん、幼稚園教諭や保育士の皆さんが西宮市で働きやすくするための支援策を強化するよう訴えました。公共施設については昨年、当会派の牧みゆき議員により「必要な修繕・更新工事が先送りされており、その総額が650億円以上にのぼる」という危機的な現状が明らかにされたことをふまえ、工事の前倒しや計画的な修繕・更新、施設配置の適正化等を進めるよう求めました。

代表質問の詳細は公式HP・YouTubeで！



質問全文



動画



長期的な視点に立ったまちづくりの推進を！

■阪急夙川駅・JR西宮駅の周辺では、一体的なまちづくりが求められます。

近年、本市では複数の鉄道駅周辺で大規模な開発や駅前空間の整備が計画・実施されています。一方で課題を抱えたままの駅前地域も多く、今回の代表質問では2つのエリアを取り上げました。

まず、阪急夙川駅は1日平均乗降客数が3万人を超える本市の主要駅の一つですが、駅前広場は狭く、駅の利用者、バスを待つ人のほか、行き交う歩行者や自転車で慢性的に混雑しています。山手に住宅街が広がる特性上、送り迎えに車を利用する市民が多く、バス・タクシー・乗用車が乗り入れて交錯するロータリーでも、危険が生じています。駅の北東側に改札口の設置を求める声もあり、これらの課題を抜本的に解消するには、駅前ビルの建替え等にあわせて、市が主体的にまちづくりへ参画する必要があります。

また、JR西宮駅の北側には多くの市営住宅が建ち並んでおり、今後、順に建物の耐用年数が到来します。現在、市は旧耐震住宅から新耐震住宅への住替え事業や、入居・家賃制度の見直しを進めていますが、当該地域は交通利便性に優れた本市の都市核であり、効果的な土地の活用が期待できる場所です。市営住宅の建替えにとどまらず、地域全体の魅力を向上させる姿勢が欠かせません。



阪急夙川駅・南側



JR西宮駅・北側

■市としてのビジョンを示すべきです！

これらの事業には、駅利用者や地域住民の利便性・安全性を向上させるだけでなく、まちの価値を高める効果が期待されます。大規模なまちづくりには関係者の合意形成や多額の費用が必要で、構想から完成までには長い期間を要しますが、長期的な視点に立って、市としてのビジョンを示すよう求めました。

市民と地域に寄り添う市役所を目指して。

■せっかく寄せられた「市民の声」には、誠実な対応を！

本市には、市ホームページの投稿フォーム・メール・文書等により、年間1,000件以上の「市民の声」が届いています。市は寄せられた質問・意見・提案等に対して回答を行いますが、中には「予算額を質問されているのに、金額を答えない」「市では明らかに解消できない要望なのに、できないと明言しない」等、正面から向き合わない回答が多く見られます。市民の声は、その方の疑問点やお困りごとを解消するだけでなく、施策を改善するきっかけになる場合もあり、非常に重要なものです。市民との対話を大切に
する姿勢を明確にし、回答の質を向上するための具体的な取り組みを進めるよう要望しました。

■地域情報誌「宮っ子」のあり方を見つめ直すべきです。

西宮コミュニティ協会が発行する「宮っ子」は、1979年の創刊以来、約400号にわたって市民の手で企画・編集・配布が行われてきました。地域のコミュニティ活動として重要な役割を担っており、市も協会に対して補助金を支出し、発行を支えてきました。一方で、地域活動の担い手が減少する中、編集委員のなり手が不足する・各自治会等が配布を続けられない、といった課題が顕在化しています。今年度から月1回の発行となった市政ニュースとの統合を含めて、持続可能な発行手法を検討するべきです。

■PROFILE / 鷹野 伸 (たかの しん)

【お問い合わせ先】 mail@takanoshin.jp / 070-1524-7109

1990（平成2）年3月生まれ。西宮市立苦楽園小学校・苦楽園中学校・関西学院高等部・関西学院大学法学部卒業。大学在学中、「甲東ニューヴェルヴァーグ・ウインドオーケストラ」を設立（初代表）、進学塾「関学ゼミナール」講師を務める。2012年、阪急不動産株式会社（現：阪急阪神不動産株式会社）に入社。新築分譲マンション部門にて約6年半勤務。2019年4月の西宮市議会議員選挙にて初当選、現在2期目。行政書士試験合格者、宅地建物取引士。